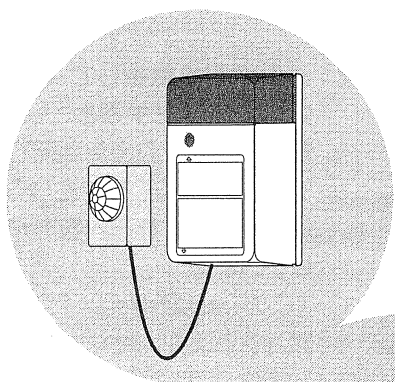


緊急24 ツーホー

本体通報装置取扱説明書



このたびは「緊急24^{ツーホー}」をご使用いただきまして誠にありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただきました上、正しくご使用ください。
お読みの後は、いつでも見られる所に必ず保存しておいてください。



異常事態が発生しています！

〇〇町〇〇で

緊急！緊急！

一般の電話

携帯電話

に順次通報



もくじ

- 安全上のご注意 1
- 緊急24ツーホー動作のしくみ 3
- 使用上のご注意とお願い 5
- 緊急24本体通報装置各部の名称 6
- 1. センサ類の準備
 - ①人感センサ(+送信ユニット)設置方法 7
 - ②マグネットセンサ設置・設定方法 11
 - ③映像記録装置との接続・設定方法 14
 - ④火災報知リモコン(+送信ユニット)設置方法 15
 - ⑤緊急ボタンユニット(+送信ユニット)設置方法 16
- 2. 本体通報装置の設定
 - Step1 通報する内容を音声で録音します 17
 - Step2 通報先電話番号を設定します 19
 - Step3 反応させる送信ユニットを登録します 23
- 3. 本体通報装置を電話回線に接続 25
- 4. 本体通報装置の動作確認 29
- 5. 「通報待機」の開始と解除 31
- 通報動作の流れ 33
- エラーメッセージについて 35
- Q&A 36
- 修理に出す前にお確かめください。 37
- 保証書 38
- アフターサービスについて 38

安全上のご注意

「緊急**24**（ツーホー）」を安全に正しくご使用いただくために、ご注意していただきたいことを絵表示で示しています。それぞれの絵表示はつぎのことを意味しています。絵表示および絵表示についている指示内容にしたがい正しくお使いください。

	危険：この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が重傷を負ったりまたは死亡する危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。 (この「緊急 24 （ツーホー） 」には該当する項目はありません。)
	警告：この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が重傷を負ったりまたは死亡する可能性が想定される内容を示しています。
	注意：この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示しています。
	:⊘ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図中の中や近くに具体的な禁止内容が描かれています。
	:⓪ 記号は行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。図中の中や近くに具体的な指示内容が、描かれています。



警告



禁止

指定された電源電圧 (AC100V、50/60Hz) 以外の電圧では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



禁止

この製品は屋内専用です。屋外や風呂場などの水のかかる場所への設置は絶対しないでください。火災・感電等の原因となります。



分解
禁止

お客さまご自身でこの製品のネジを緩めたり、分解や修理は絶対にしないでください。火災・感電・けがの原因となります。また、性能維持ができなくなり、故障の原因となります。



強制

万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電等の原因になります。すぐに取り付けているコンセントから製品を抜き取り、煙・変な臭いがなくなるのを確認してから販売店へ調査・修理をご依頼ください。



禁止

この製品には紙・布をかぶせて使用しないでください。火災の原因となります。



強制

グラグラするような取付けの悪いコンセントや歩行中に蹴とばすような位置にあるコンセントには設置しないでください。また取付けは、製品本体のコンセントプラグをコンセントにキッチリと差し込んでください。コンセントのがたつき、製品の抜け落ちにより、火災・感電・故障の原因となります。



強制

万一、製品に水がかかった場合は、コンセントから抜き取り、お買い上げの販売店へご相談してください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



禁止

本体が落下するおそれのある場所への設置はしないでください。製品の損傷、ケガの原因となります。



禁止

コンセントおよびテーブルタップに本体をタコ足配線しないでください。火災・感電・火傷の原因となります。



注意



禁止

ガステーブルの付近や高温になる場所では使用しないでください。



禁止

湿気やほこりの多い場所には設置しないでください。火災・感電の原因となることがあります。



禁止

直射日光の当たる所に設置しないでください。長時間のうちに変形・故障の原因となります。



禁止

ぬれた手で本体の電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



禁止

乳児、幼児が手でさわらないようご注意ください。感電の原因となります。



強制

室温が-10℃～40℃の範囲内でご使用ください。火災・感電・製品の損傷の原因となります。



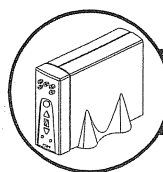
強制

長期間この製品をご使用にならないときは、安全のため必ず本体をコンセントから抜いてください。



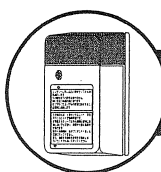
禁止

お手入れの際には、ベンジン、アルコール、シンナー、塩酸性洗剤、クレゾールなどの薬剤や、タワシ、みがき粉などは使わないでください。変色、変形、変質、傷、及び性能の劣化などの原因となります。お手入れは柔らかい、乾いた布で軽く拭き取ってください。



緊急24本体通報装置

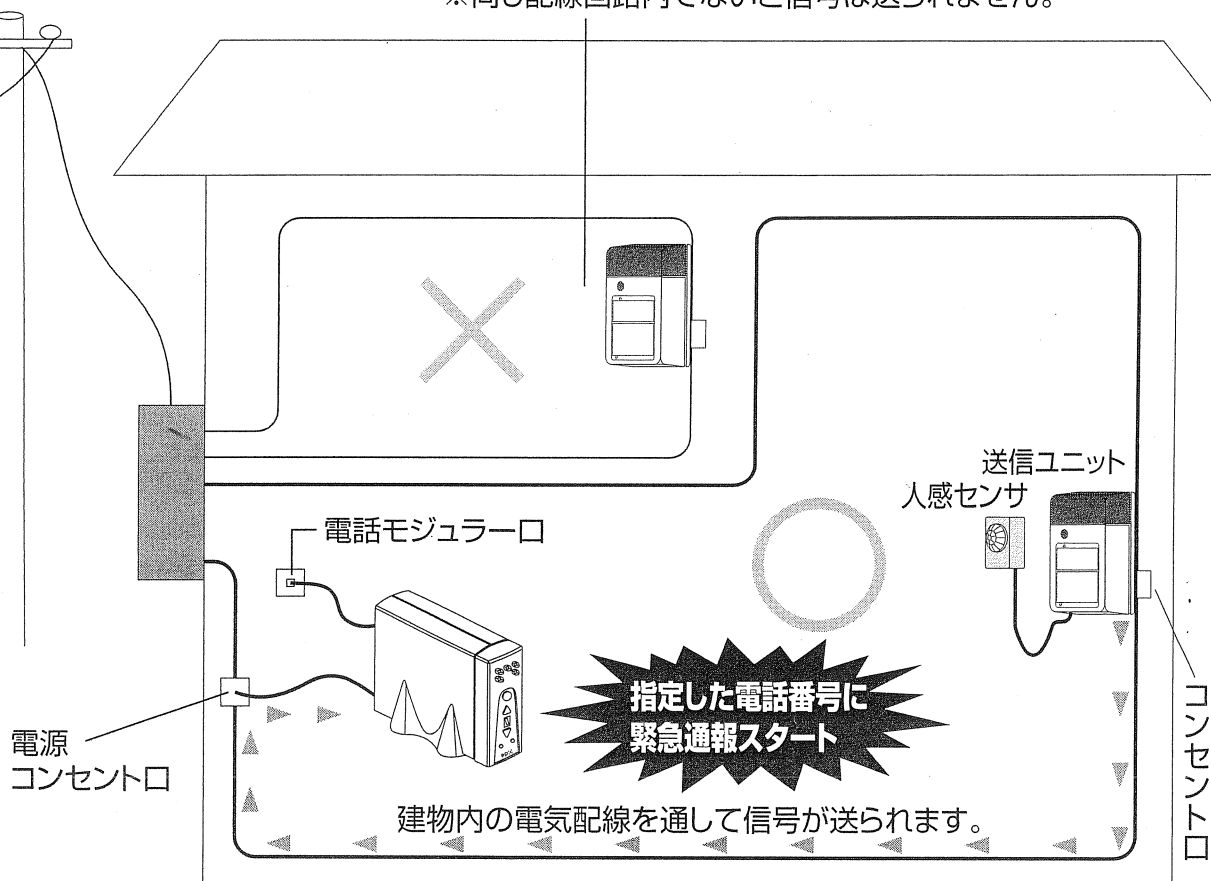
と



人感センサ(送信ユニット)

の組み合わせの場合

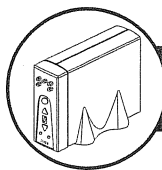
※同じ配線回路内でないとは信号は送られません。



人感センサ(送信ユニット)が、人を感知すると**建物内の電気配線を伝って**、緊急24本体通報装置に信号が送られます。同じ建物内であっても、異なる配線の電源コンセントにつながると信号が送られません。

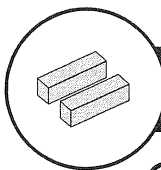
※必ず、事前に動作確認を行ってください。(P.29)

動作のしくみ



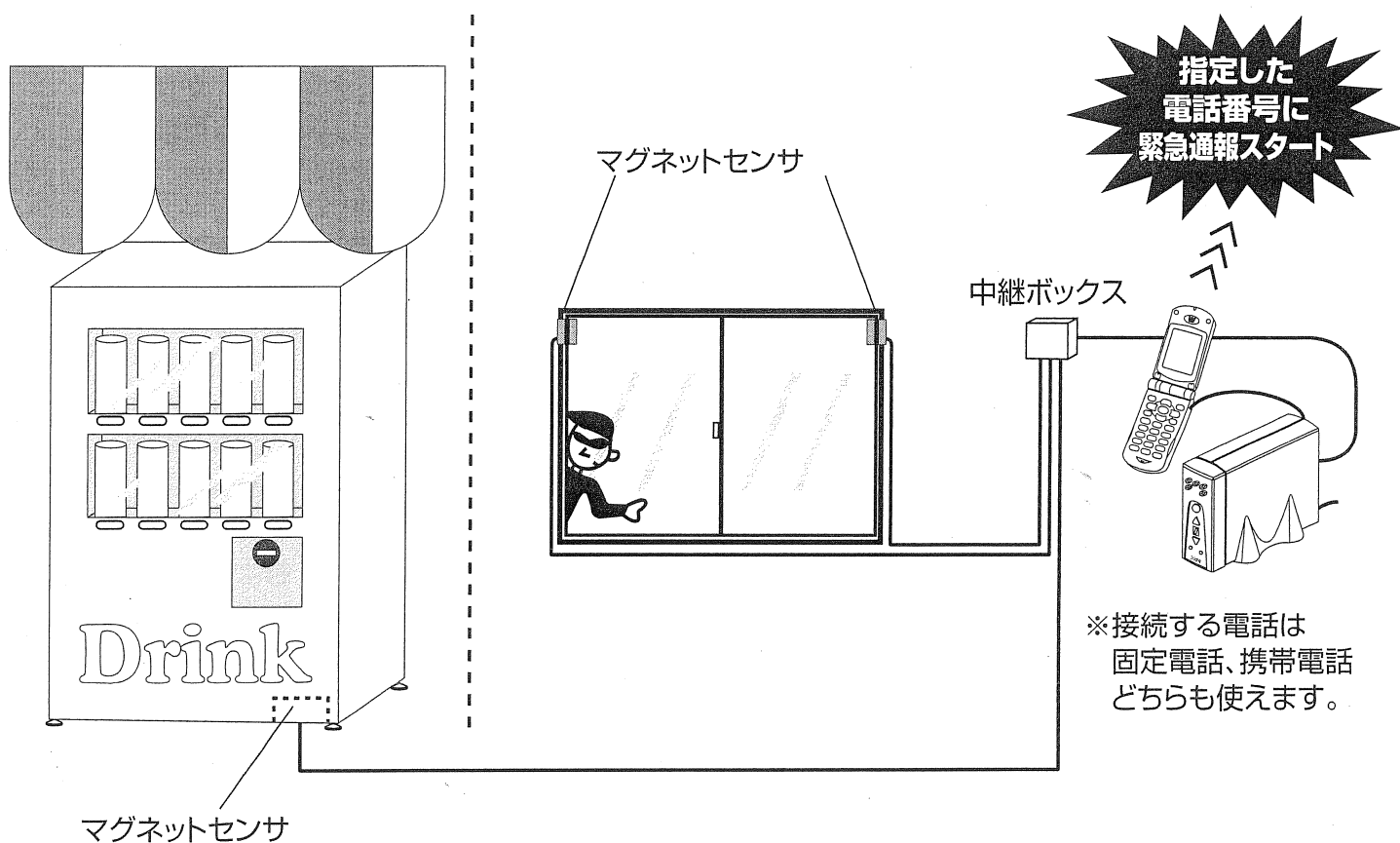
緊急24本体通報装置

と



マグネットセンサ

の組み合わせの場合



マグネットセンサ作動中に、3秒以上ドアが開いた状態になると、緊急通報を開始します。

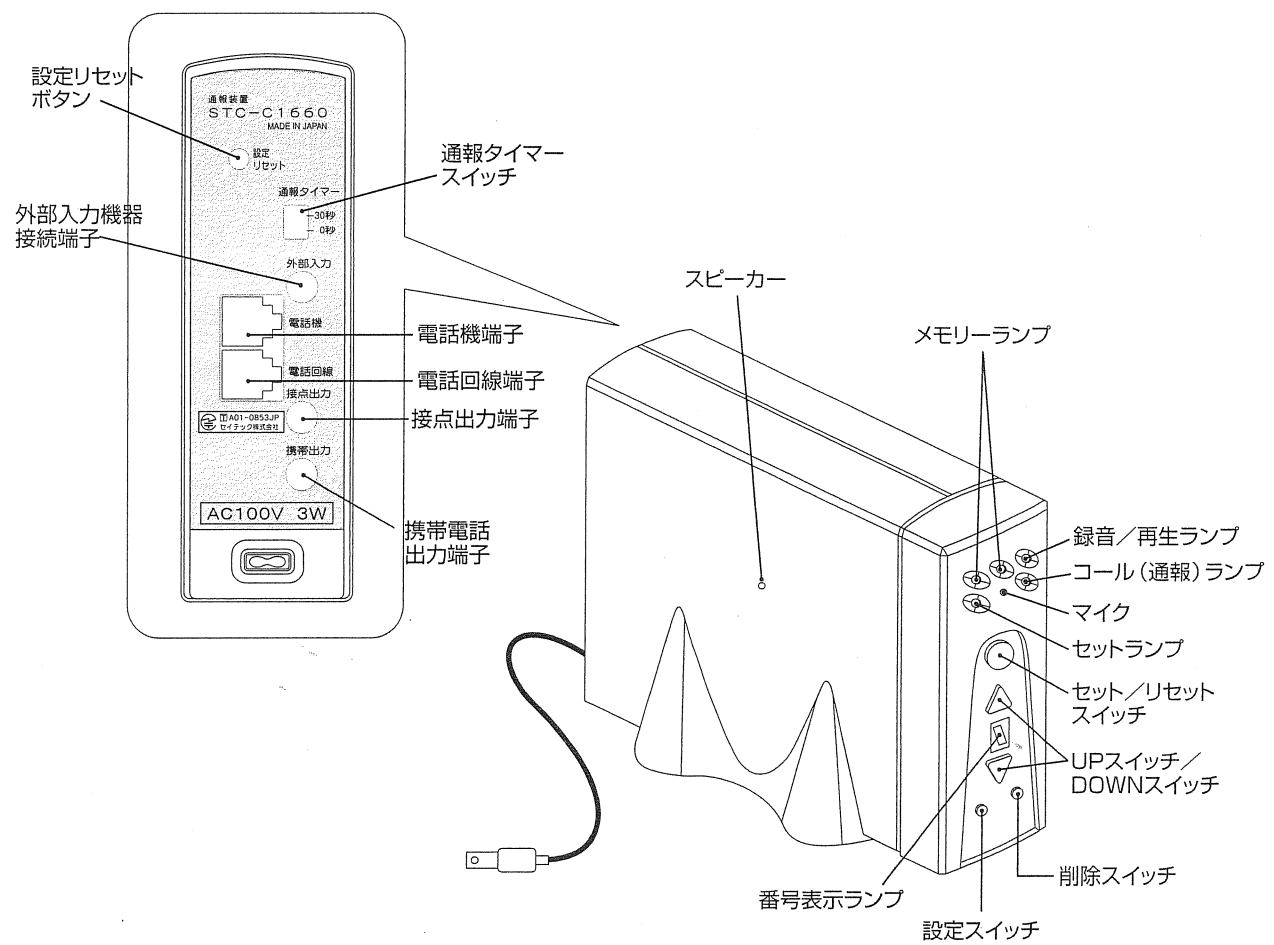
センサは外部入力ジャックに接続します。

人感センサを使用しない場合、送信ユニットは不要です。

使用上のご注意とお願い

- 一般家庭用のため規模の大きな建物によっては、動作しにくい場合があります。
また、屋内配線の方式や距離によって動作しにくい場合もあります。
※単相3線式(100V 2系統)で別系統にまたがる場合、動作しない場合があります。
本体と送信器の間の屋内配線距離は100m以内を目安にしてください。
- 同一の電力メーターの範囲内でご使用ください。
- 家庭内でご使用の電化製品などのノイズにより誤作動する場合があります。
また、接続された電化製品によって通報信号が吸収されることがあります。
- 一般家庭用アナログ電話回線(単独回線)でご使用ください。
ADSLブロードバンド回線をご使用の場合は、スプリッターの電話側でご使用ください。
ISDNデジタル電話回線をご使用の場合は、ターミナルアダプター、ルーター等のアナログポートに接続して使用することができます。
- ホームテレホン・ビジネスホン等の構内交換装置(PBX)をご使用の場合は、交換装置を通った回線信号では動作しないばかりでなく構内電話が動作しなくなる可能性があります。
構内交換装置回線入力部より前のアナログ回線部分でご使用ください。
- ひかり電話には対応しておりませんが、インターネット環境があればVoIPアダプタを使用することによりIPフォン端末として通報させることが可能です。
詳細はお使いのルーター等の説明書をご参照ください。
※契約プロバイダーとのIPフォン契約が別途必要です。
- 電話番号メモリーを複数入力した場合、必ず全ての電話番号に通報しますので通報先に承諾を得ておいてください。
- 電話通報先の転送電話、留守番電話、FAX等に接続された場合はその時点で受信したと認識し音声を再生します。以後の通報は行いません。
- モジュラージャックでない電話をお使いの場合は別途工事が必要です。もよりの電話会社にご相談ください。
- 携帯電話を使用して発信する場合は、イヤホンスイッチ発信機能を有する機種以外では通報できません。対応機種については各電話会社へおたずねください。
※携帯電話接続ケーブル(別売)が必要です。
※弊社にて確認できている機種は次の通りです。
NTT DoCoMo 505/506シリーズ、702シリーズ(M702を除く)、703/704シリーズ、902/903/904/905/906シリーズ
- 停電時は送信ユニットからの信号が停止しますのでそれによる通報はできませんが、マグネットセンサ等の通報装置に接続された外部入力機器の検知は有効に動作します。
停電後2時間以内であれば最低1回は通報動作を行うことが可能です。
- 強い衝撃を与えないでください。火災・故障の原因となります。
- 防水・防滴構造ではありませんので湿気の多い場所への設置は避けてください。
- 本製品は日本国内のみでご使用ください。
- この製品は侵入者を防止するものではありません。
この製品は異常検知信号により指定された電話番号に自動通報する為のものです。
- この製品をご使用中にあわれた盗難、物損等の被害については、弊社は一切の責任を負いかねます。ご了承ください。

緊急24本体通報装置各部の名称



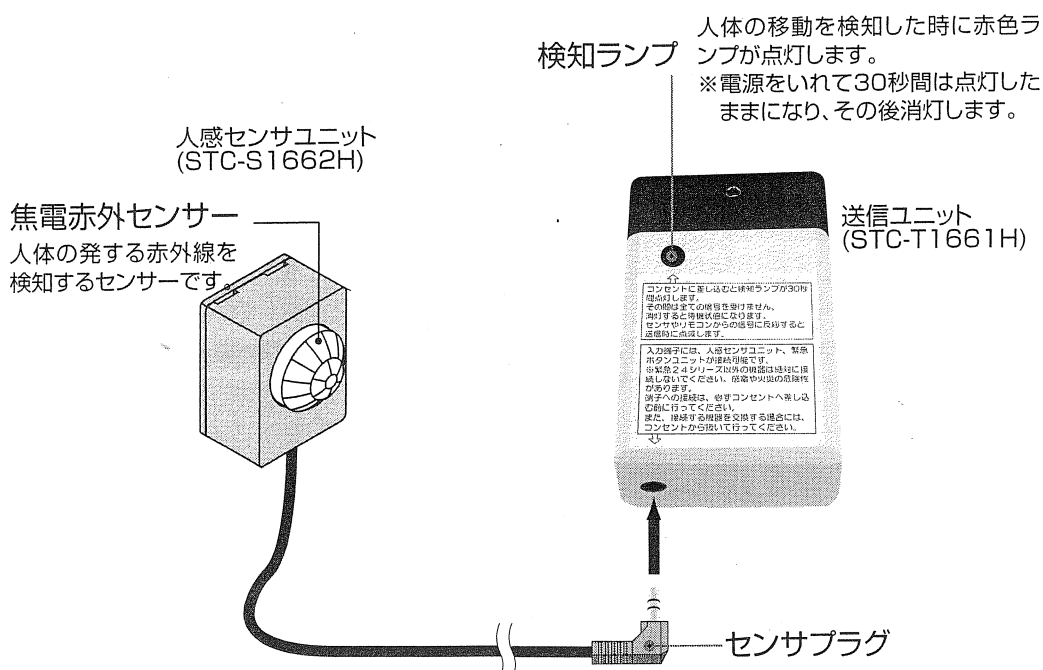
本 体 (STC-C1660)	
サ イ ズ	幅70×高110×奥行150mm
定 格	3.0W
電 源	AC100V
重 量	570g
電 話 回 線	発信形式/トーン回線、パルス回線(10pps、20pps)及びイヤホンスイッチ発信機能を持つ携帯電話
電話登録可能件数	2件(4桁～16桁)、携帯電話の場合は1件
付 属 品	モジュラーケーブル(3m) 1本、取扱説明書(本書)
外 部 出 力	リレー接点出力 DC30V・1A以下 3.5φ3P(2-3)

1. センサ類の準備

① 侵入者検知のための 人感センサ

人感センサユニット + 送信ユニット

この組み合わせは、不在時の事務所や住居への侵入者を感知して、その信号を屋内電気配線に送り本体通報装置に伝えるものです。



※ご使用の前に送信ユニットを本体通報装置に登録する必要があります。

後述の手順で登録を行ってください。

(別売オプション)

品名・品番	人感センサユニット STC-S1662H	送信ユニット STC-T1661H
寸法	幅30mm×高40mm×奥37mm (線・プラグ部を除く)	幅58mm×高90mm×奥32mm (プラグ部を除く)
定格	—	1W
電源	送信ユニットより供給	AC100V 50/60Hz
重量	56g	97g

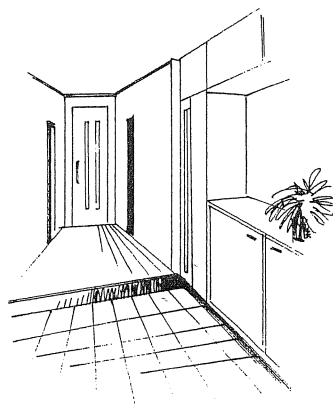
※注:製品仕様は予告なく変更する場合があります。

(+送信ユニット) 設置方法

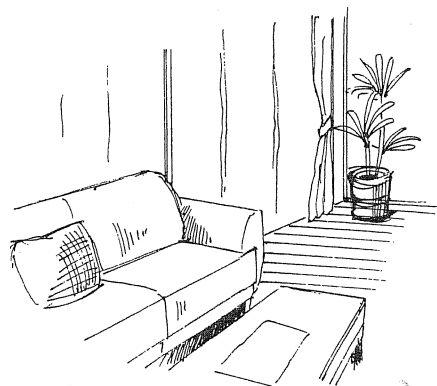
人体感知センサーの設置は、緊急24本体の[セット/リセットスイッチ]を押し、セットランプが消えている状態で行ってください。

人感センサユニットをセットします

人感センサユニットを侵入者を検知しやすい場所に設置します。
次にセンサプラグを送信ユニットにしっかりと差し込みます。
送信ユニットは最寄りのコンセントに差し込んでください。



【玄関】



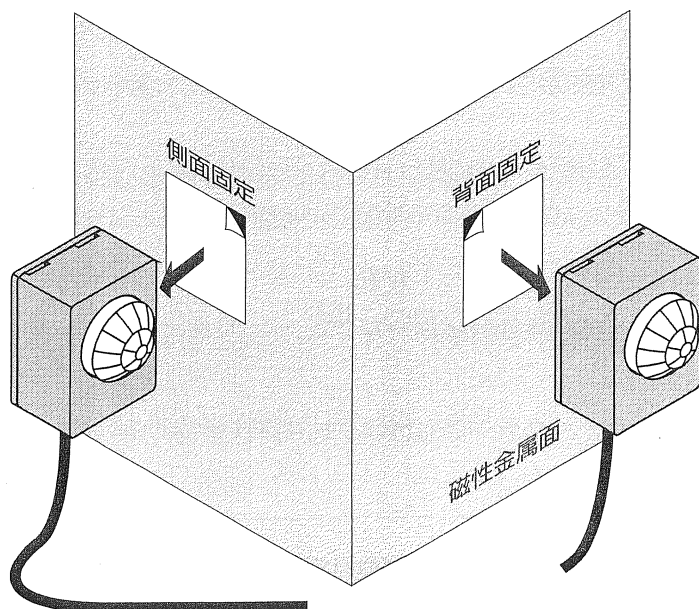
【廊下・リビング】

取 付 方 法

付属のマグネットシートを使って鉄製の棚・壁面・天井等の平滑な面に取り付けることができます。

樹脂製や木製の表面には市販の両面テープでしっかりと止めてください。

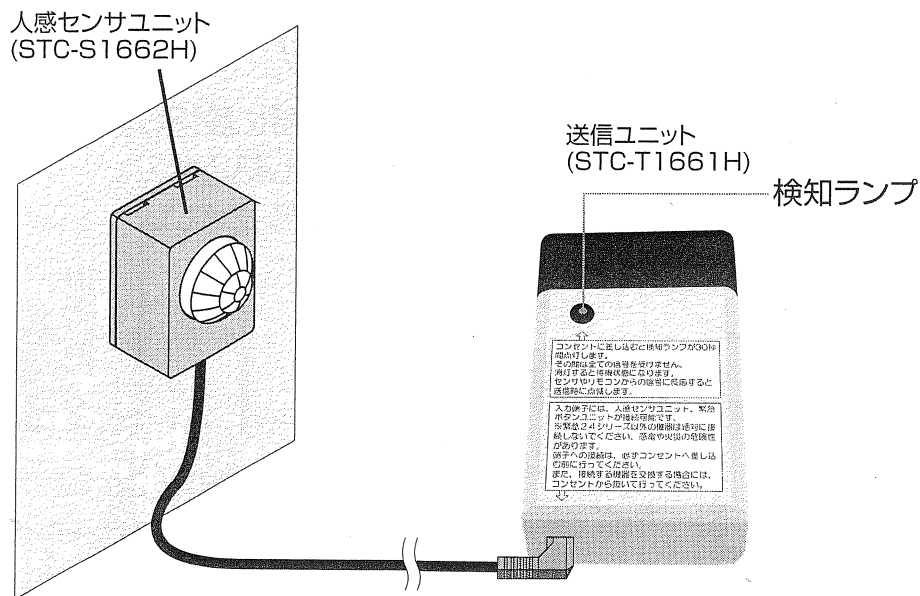
※風で揺れるような不安定な場所や直射日光・温風が直接当たるような場所は避けてください。



センサー部の調節

検知したい範囲に合わせて、センサを設置します。

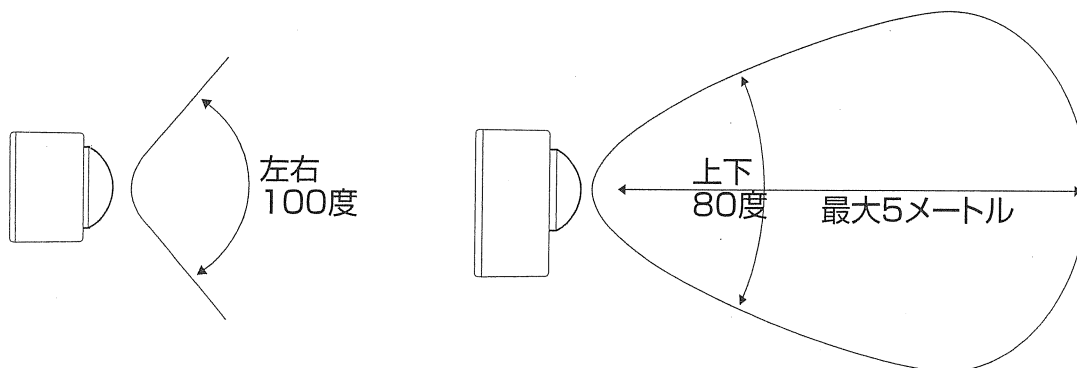
送信ユニットの検知ランプが点滅しているときは、検知状態にあります。



センサー検知エリア

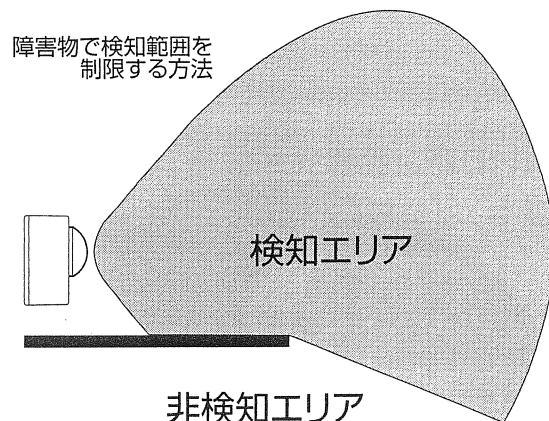
センサーの検知エリアは、おおむね以下の図のようになっています。

設置の際の目安にしてください。



ペットのいる場合は

人感センサは、犬や猫などのペット類も検知エリア内にはいると反応しますのでご注意ください。設置場所の確認を入念に行ってください。センサの白い部分が見えない場所は非検知エリアとなります。



人体検知スタート

- 送信ユニットをコンセントに差し込んで約30秒間は検知ランプが点灯したままになります。検知ランプが消灯すると検知が可能になります。
- 人体を検知し、検知ランプが点滅することを確認できたらセットは完了です。
- 緊急24本体と組み合わせて使用する場合、**侵入者を感知するとすぐに通報を開始**しますので、必要のない場合は緊急24本体の[セット/リセットボタン]を押して、すみやかに通報状態を解除してください。

人感センサユニット使用上の注意事項

- 人感センサは焦電赤外線センサを使用していますので、検知範囲内の温度の揺らぎに反応します。したがって以下の状況で誤動作することがあります。
 1. 小動物が検知範囲に入った場合
 2. 太陽光、自動車のヘッドライト、白熱灯などの遠赤外線がセンサに直接入った場合
 3. 冷暖房機の冷温風や加湿器の水蒸気などにより検知範囲内の温度が急激に変化した場合
- 以下の状況で動作しないことがあります。
 1. ガラス・アクリル等の赤外線を透過しにくい物体がセンサーとの間にある場合
 2. 検知範囲内の人体がほとんど動かない場合
- 赤外センサーの検知範囲は、センサー中心より垂直方向に±50度、水平方向に±40度、最大距離5mです。

以上のセットが完了したらP.17の「本体通報装置の設定」に進んでください。



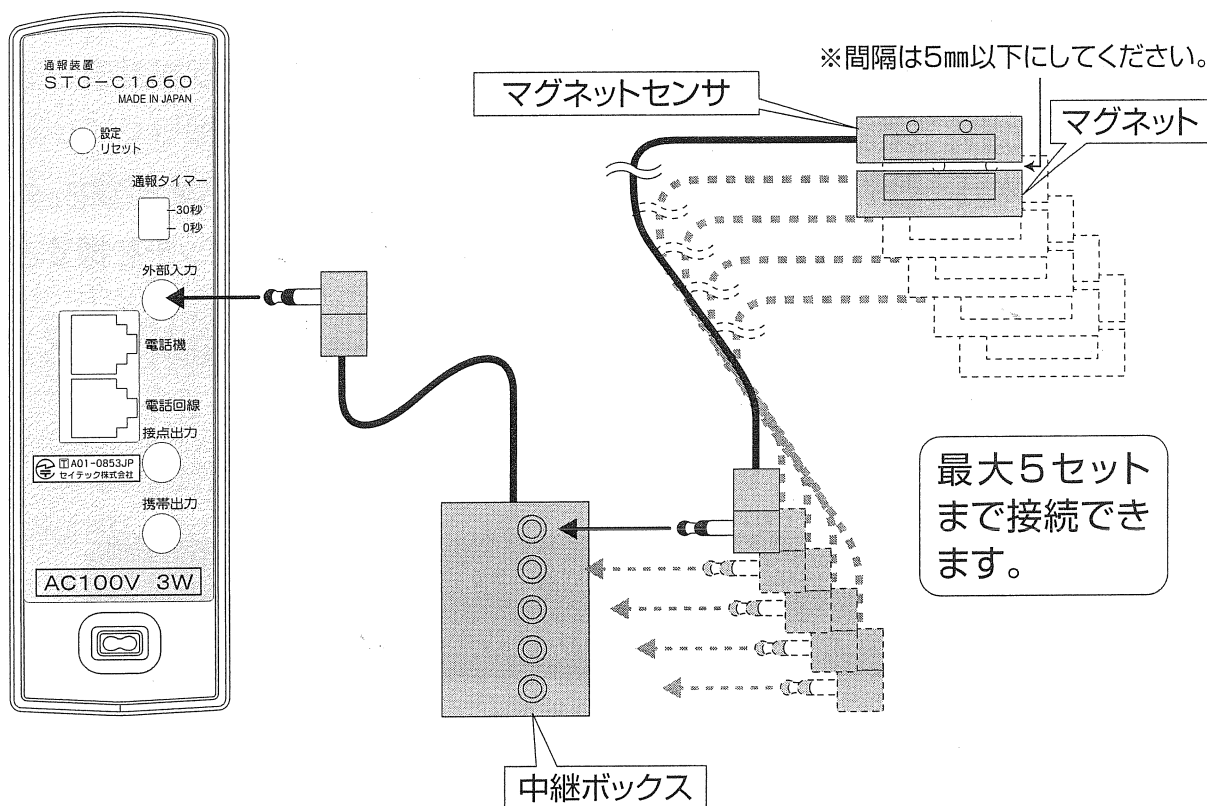
※オプションの24時間タイマー (STC-O1331) を使用した場合、送信ユニットからの信号は受け付けなくなりますが、外部入力端子への信号は電源が切れていても通報します。(停電補償機能)

マグネットセンサで外部入力を利用する場合は、本体通報装置のセットを解除してから扉を開けるようにしてください。

マグネットセンサの接続方法

下図のように接続してください。マグネットセンサは、自動販売機等に取り付けた後で中継ボックスに差し込んでください。1セットしか接続しない場合は、中継ボックスは使用しなくてもかまいません。

(注)マグネットセンサは防滴仕様ですが、中継BOX及び通報装置は水のかからない防水BOX等に格納してください。



(別売オプション)

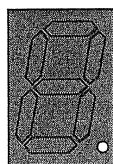
マグネットセンサ	STC-O1334
センサ延長ケーブル	STC-O1335
中継BOX	SGU1390A

外部入力機器設定

※この設定は、セツランプが消えた状態で行ってください。

外部入力機器設定を以下の手順で行ってください。

- ① 削除スイッチを押しながら設定スイッチを押してください。
- ② マグネットセンサを閉じた状態（スイッチオン状態）にして外部入力ジャックに差し込みます。
- ③ 番号表示ランプ数字右下のドットが点灯していることを確認して設定スイッチを押します。



ドットが点灯

- ④ これで設定完了です。

(注)この設定を行うとマグネットセンサが閉じた状態で正常と判定しますので、外部入力ジャックに差し込まれていない状態でセツ/リセットスイッチを押すと2分後に即時通報してしまいます。

解除するためには、上記手順の②を行わないで①→③操作してください。

※通報タイマースイッチは0秒に設定することを推奨します。

通報する電話番号の設定方法はP.19を。

電話回線や携帯電話への接続方法はP.25をごらんください。

マグネットセンサ使用上の注意事項

- マグネットセンサ部以外は防水・防滴構造ではありません。
屋外設置される場合は、防雨ケース（STC-O1333）をご使用ください。
- マグネットセンサは簡易防滴処理を施してありますが、直接雨水が流れ込むような場所への設置は避けてください。

検知と通報

①マグネットセンサが開いたままの状態が3秒経過すると設定された電話番号に通報します。

通報後もさらに開いたままになっていると、さらに2回通報を行います。

通報開始→着信側が電話をとる→通報内容が聞こえる→電話を切る
通報開始→着信側が電話をとる→通報内容が聞こえる→電話を切る
通報開始→着信側が電話をとる→通報内容が聞こえる→電話を切る

以後の通報は停止します。

②この状態でセンサが開いたままだと警戒状態には復帰しません。

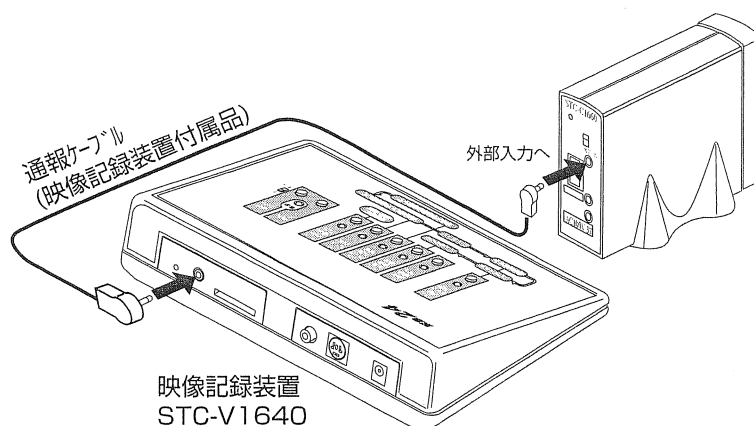
③センサが閉じるとその時点から警戒状態に復帰します。

④人感センサ(送信ユニット)からの信号には常時反応し通報を行います。

③ 映像記録装置との接続・設定方法

映像記録装置STC-V1640(別売)の通報装置として使用する場合は、映像記録装置付属の通報ケーブルを外部入力ジャックに差し込んでください。

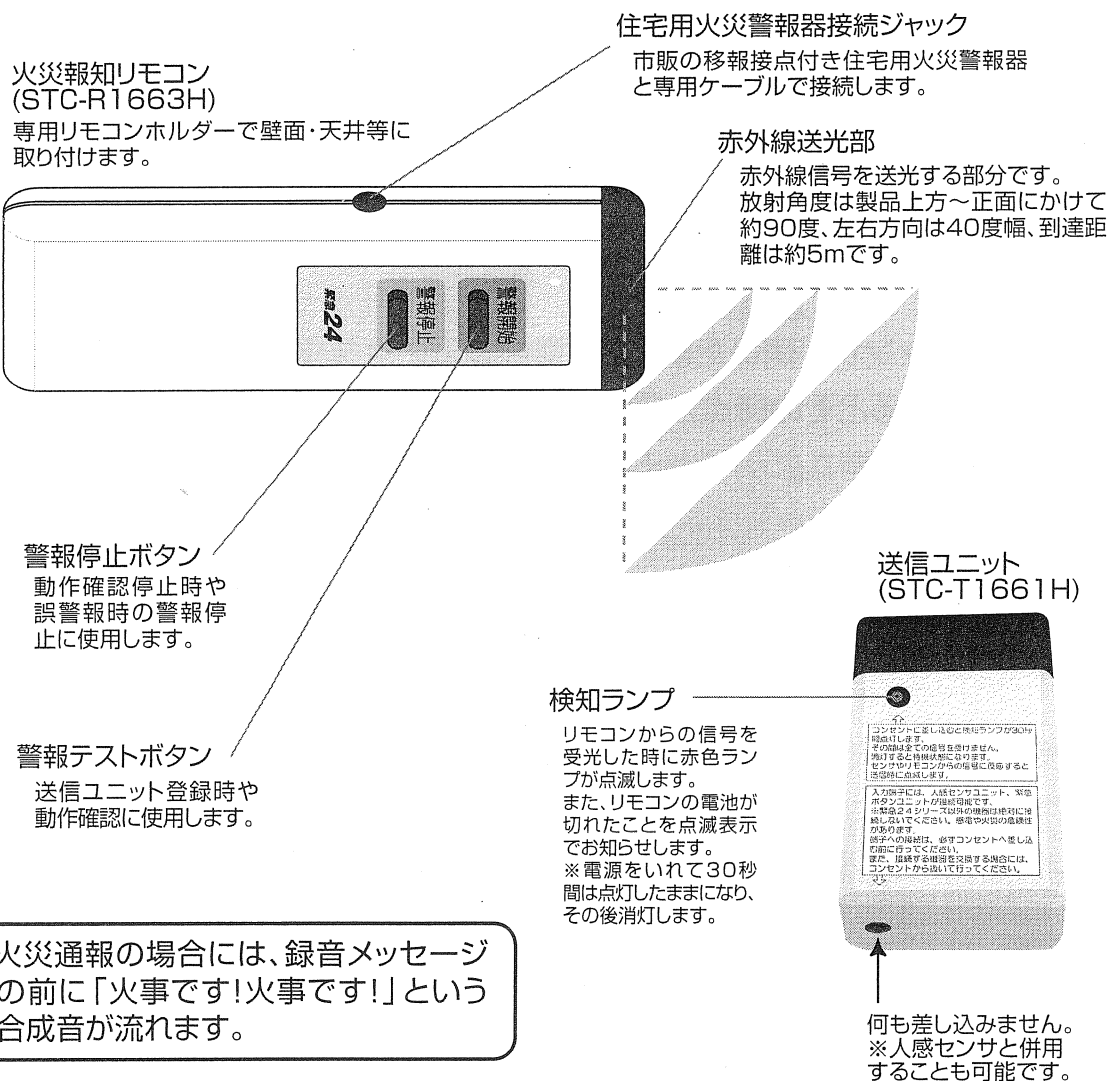
外部入力機器設定は初期状態のままでご使用ください。



④ 火災通報 火災報知リモコン (+送信ユニット) 設置方法

火災報知リモコン + 送信ユニット

この組み合わせは、不在時の事務所や住居で市販の住宅用火災警報器と組み合わせたリモコンで送信ユニットを操作し、本体通報装置に伝えるものです。



◎火災通報の場合には、録音メッセージの前に「火事です!火事です!」という合成音が流れます。

(別売オプション)

※ご使用の前に送信ユニットを本体通報装置に登録する必要があります。後述の手順で登録を行ってください。

※リモコン自体に火災を検知する機能は有りません。住宅用火災警報器の移報接点出力を利用してリモコンを動作させるものです。

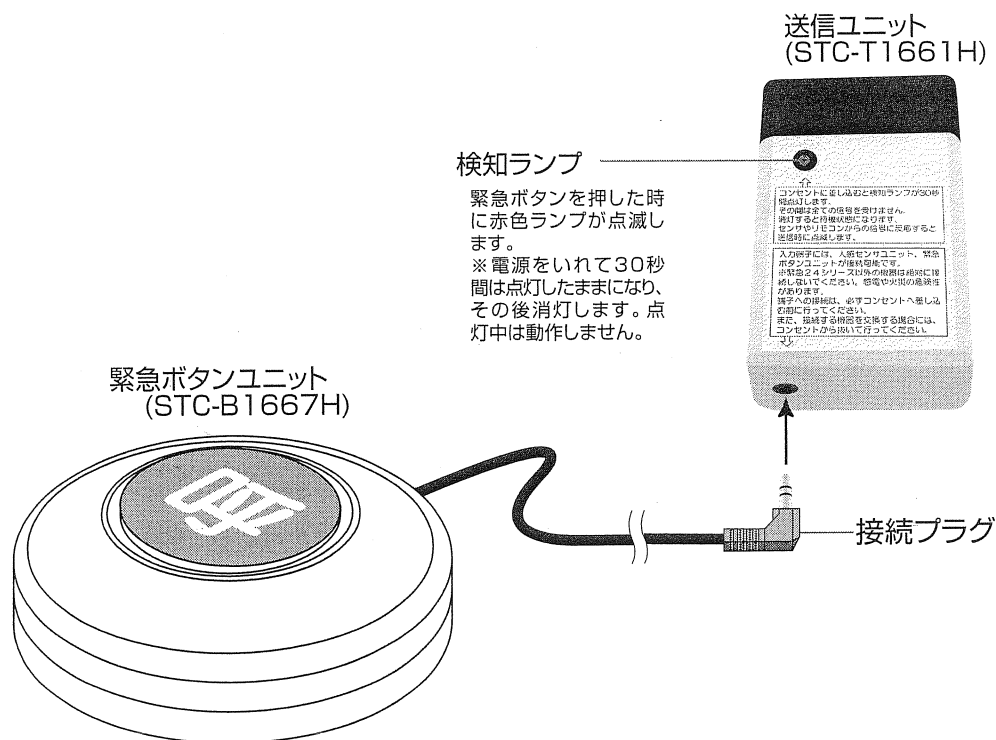
品名・品番		火災報知リモコン STC-R1663H
寸法		幅50mm×長151mm×厚21mm (ホルダー・接続ケーブルを除く)
定格		DC3.0V
電源		LR6型アルカリ電池×2
重量		58g (電池・ホルダー・接続ケーブルを除く)

※注:製品仕様は予告なく変更する場合があります。

⑤ 介護通報 緊急ボタンユニット 設置方法 のための (+送信ユニット)

緊急ボタンユニット + 送信ユニット

この組み合わせは、要介護状態の方や独居の方が異常事態を緊急ボタンを押すことによって、本体通報装置に伝えるものです。



※ご使用の前に送信ユニットを本体通報装置に登録する必要があります。
後述の手順で登録を行ってください。

(別売オプション)

品名・品番	緊急ボタンユニット STC-B1667H
寸法	直径90mm×高35mm (ケーブル長5m)
定 格	—
電 源	送信ユニットより供給
重 量	118g

※注:製品仕様は予告なく変更する場合があります。

2. 本体通報装置の設定 Step1

Step 1

通報する内容を音声で録音します。

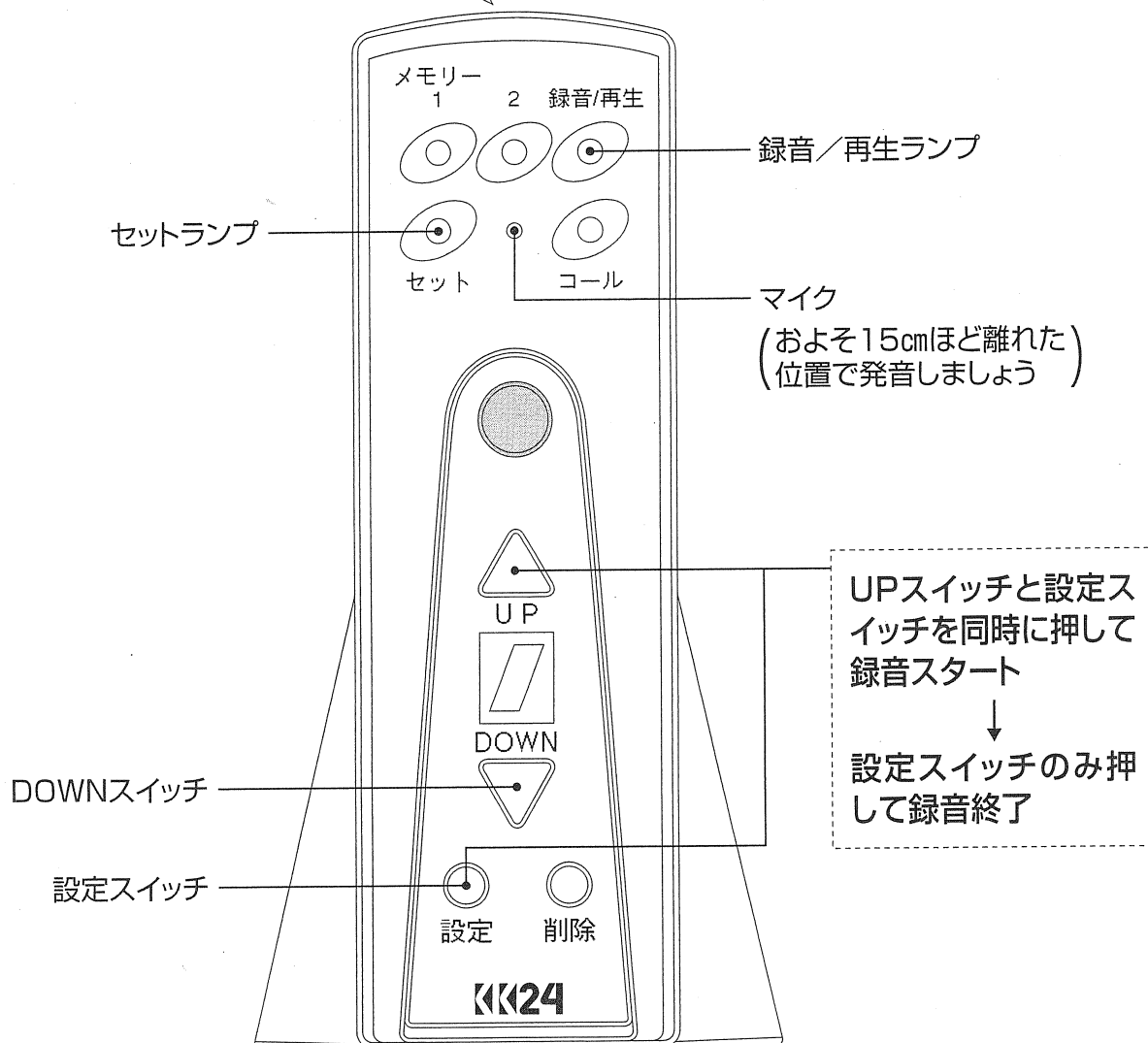
※録音できる音声は1種類です。

例) 緊急! 緊急!

○町○丁目○○宅で

異常事態が発生しています。

というアナウンスを
録音してみましょう。



- ①セットランプが消灯状態であることを確認します。
- ②[UPスイッチ]を押しながら設定スイッチを押すと、録音／再生ランプが点灯し、録音状態になります。録音状態になったらスイッチから手を離してください。
- ③録音時間は10秒以内です。マイクに向かって、時間内に録音します。

例

緊急! 緊急! ○○町○○で
異常事態が発生しています。

- ④[設定スイッチ]のみを再び押すと録音が終了します。
※録音をスタートして約10秒経過すると自動的に録音が終了します。
- ⑤録音終了後、録音された音声は再生されます。
※録音は何回でもやり直すことができます。(上書きされます)

音声を消去するには

録音状態にしてすぐ設定スイッチを押し、「無音」状態を録音してください。
製品裏面の[設定リセット]では音声は消去されません。

音声の再生(確認)

- ①[セットランプ]が消えていることを確認します。
- ②[DOWNスイッチ]を押しながら[設定スイッチ]を押すと再生されます。
——再生中は録音／再生ランプが点灯します。
——再生中に[設定スイッチ]を押すと再生が終了します。

2. 本体通報装置の設定 Step2

Step 2

通報先電話番号を設定します。

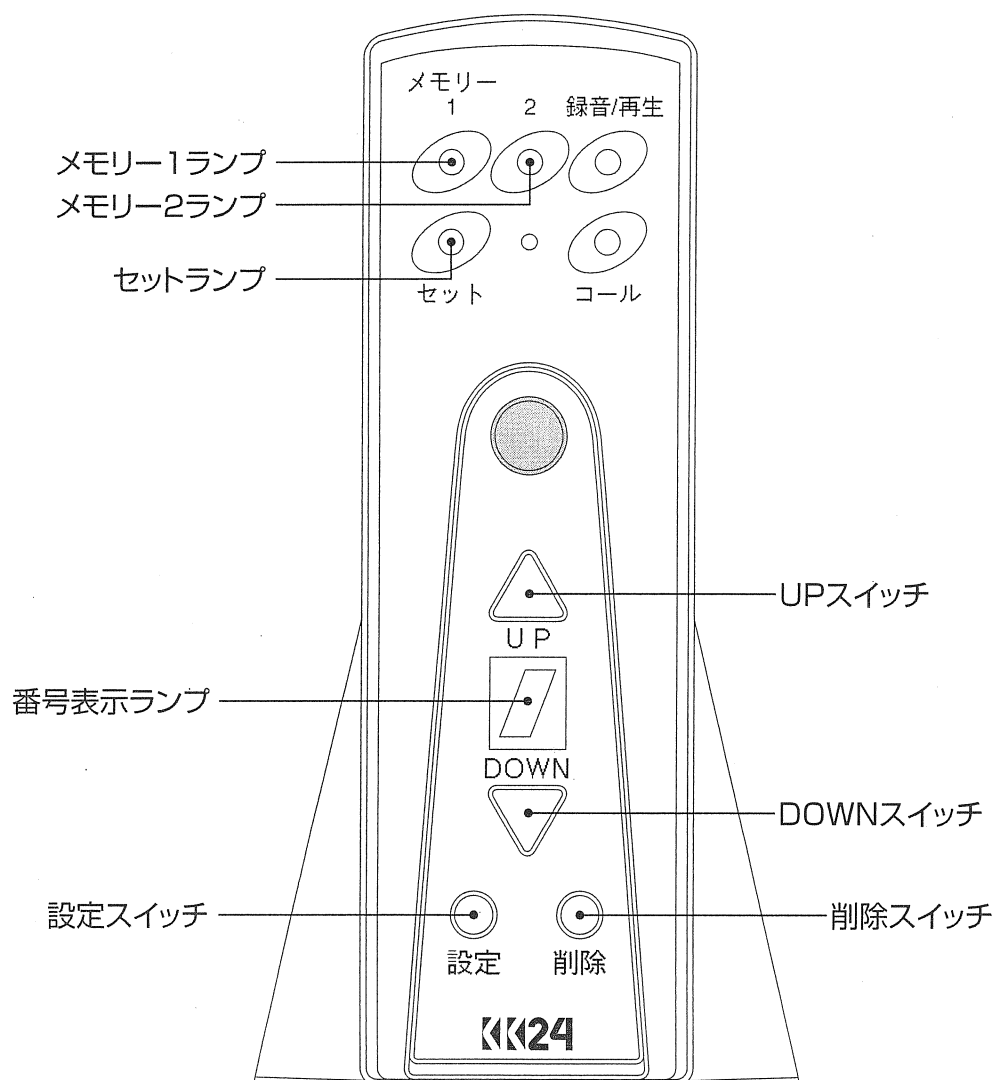
※通報先電話番号は2つまで登録することができます。

例) 電話番号

321-9876を登録してみましょう。

※登録電話番号は4桁以上、最大16桁までです。

「110」「119」等は登録できません。



● [セトランプ] が消えていることを確認します。

① [設定スイッチ] を約2秒間 (ピー音が鳴っている間) 押し続けます。ピー音が鳴り終わったら、設定スイッチから手を離します。

② 番号表示ランプと登録するメモリーランプが点滅し、入力待ちとなります。

③ [UPスイッチ] または [DOWNスイッチ] を押して [番号表示ランプ] の数字を変えていき、目的の数字になったら [設定スイッチ] を押し、決定します。ピッと音が鳴ります。

④ ③の方法で一桁ずつ電話番号を登録していきます。

③ ▶ [設定] ▶ ② ▶ [設定] ▶ ① ▶ [設定] ▶ ⑨ ▶ [設定] ▶ ⑧ ▶ [設定] ▶ ⑦ ▶ [設定] ▶ ⑥ ▶ [設定]

これで設定ができました。

⑤ 正しく登録されているか確認をします。

設定スイッチを2秒間 (ピー音が鳴っている間) 押し続けます。ピー音が鳴り終わると登録電話番号が一桁ずつ順に表示されます。もし、間違っている場合は、[設定スイッチ] - [削除スイッチ] と押します。番号はすべてクリアされますので、最初から設定しなおします。

⑥ 点滅していたメモリーランプが点灯したら登録完了です。

登録を途中で中止するには

登録を途中で中止する場合は、[削除スイッチ]を押します。（登録途中の番号はクリアされます。）

二つの電話番号を登録する場合

本製品は、メモリー1とメモリー2に、それぞれ通報する電話番号を登録できます。工場出荷時には、どちらにも何も登録されていません。

- メモリー1、2共に登録されていない場合はメモリー1への登録となります。
- メモリー1に登録されていて、メモリー2に登録されていない場合はメモリー2への登録となります。
- メモリー2に登録されていて、メモリー1に登録されていない場合はメモリー1への登録となります。
- メモリー1、2共に登録されている場合は登録できません。（メモリーをどれか消去してから登録してください。）

携帯電話を使う場合

携帯出力を使用する場合はメモリー1に『9924』番を登録します。

設定方法はP.19の電話番号登録方法をご覧ください。

『9924』は携帯電話発信専用特別番号です。

携帯電話のイヤホンスイッチ発信機能専用メモリーに通報先の電話番号を登録します。（設定方法はご使用携帯電話の取扱説明書をご覧ください。）

携帯電話接続ケーブル（オプション）を本体背面の携帯電話出力端子と携帯電話機の平型ジャックにそれぞれ差し込みます。

※ご使用の携帯電話のイヤホン接続部が平型ジャックに対応していない場合は、各電話会社にご相談ください。変換ケーブルが用意されている場合があります。

※この設定では、一般加入電話回線に接続されても発信しません。

登録された電話番号の確認

- [セットランプ]が消えていることを確認します。
- ①[設定スイッチ]で電話番号を確認するメモリーを選択します。(設定スイッチを押すたびにメモリーランプが点滅、点灯を繰り返し点滅しているメモリーが確認できます。)
- ②メモリーランプが点滅している状態で[設定スイッチ]を2秒間(ピー音が鳴っている間)押し続けます。登録電話番号が一桁ずつ順に表示されます。
- ③点滅していたメモリーランプが点灯したら確認終了です。

登録された電話番号の消去

- [セットランプ]が消えていることを確認します。
- ①[設定スイッチ]で電話番号を消去するメモリーを選択します。(設定スイッチを押すたびにメモリーランプが点滅、点灯を繰り返し点滅しているメモリーが消去できます。)
- ②メモリーランプが点滅している状態で[削除スイッチ]を押すと登録されていた電話番号が消去されます。
- ③点滅していたメモリーランプが消灯したら消去終了です。

2. 本体通報装置の設定 Step3

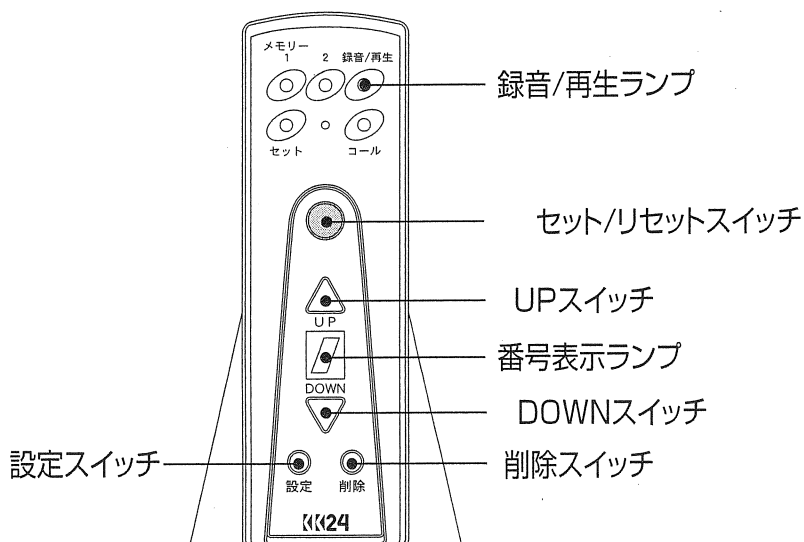
Step 3

反応させる送信ユニットを登録します。

送信ユニットを登録することで送信ユニットからの検知信号により通報動作を行うようになります。

※マグネットセンサー・映像記録装置と組み合わせて使う場合は、この操作は必要ありません。

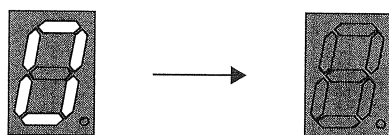
P.25以降をお読みください。



- ① セットランプが消灯状態であることを確認します。
- ② 登録したい送信ユニットの近くのコンセントに本体通報装置を差し込みます。
(送信ユニットはあらかじめ電源をいれておいてください)
番号表示ランプの横棒上下移動表示が止まったら次にお進みください。
- ③ 削除スイッチを押しながら設定スイッチを押し、通信確認状態にすると録音/再生ランプが点滅します。
- ④ セット/リセットスイッチを押すと番号表示ランプに0～9の未登録番号の内どれかが点滅します。



⑤送信ユニットを作動（人感センサを反応させる/火災報知リモコンの警報確認ボタンを押す/緊急ボタンを押す・・・のどれかの方法）させるとピッという音と共に点滅していた番号が一瞬点灯に変わり、その後表示が消えます。



※この作業は④の状態になってから10秒以内に行ってください。

⑥これで点滅していた番号に送信ユニットが登録されました。

⑦2台以上（最大10台まで）の送信ユニットを登録するには、別の送信ユニットの場所で①～⑥を繰り返します。登録時には登録済みの送信ユニットはコンセントから抜いておいてください。

※登録作業を途中でキャンセルする場合は設定スイッチを押してください。

⑧通信確認状態で登録済みの送信ユニットからの信号を受信すると、登録された番号表示が一瞬点灯することを確認しておいてください。

⑨設定スイッチを押して通信確認状態を解除してください。

送信ユニットの登録を削除するには

①削除スイッチを押しながら設定スイッチを押し、通信確認状態にすると録音/再生ランプが点滅します。

②削除スイッチを押すと番号表示ランプに0～9の登録済番号の最も小さい番号が点滅します。

③UPスイッチまたはDOWNスイッチで削除したい番号を選択して、もう一度削除スイッチを押します。

④通信確認状態に戻り指定した番号の送信ユニット登録が削除されました。

⑤設定スイッチを押して通信確認状態を解除してください。

3. 本体通報装置を電話回線に接続

一般電話回線 (アナログ)

「電話回線」端子にモジュラーコンセントをつなぎ本体に電源を入れると自動で回線設定を行います。

●トーン回線の場合

番号表示「1」

●ダイヤル回線(20PPSの場合)

番号表示「2」

●ダイヤル回線(10PPSの場合)

番号表示「3」

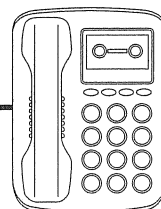
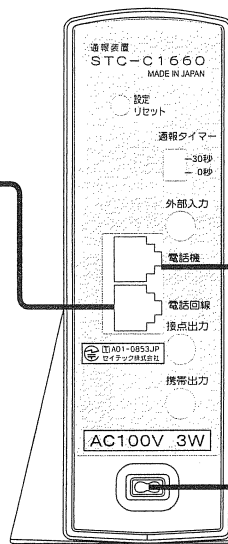
●回線を認識できなかった場合

番号表示「4」

また、以下の方法で強制的に回線設定を行うことができます。

- セツ/リセットボタンを押しながら
電源を入れる → トーン回線設定
- UPボタンを押しながら
電源を入れる → 20PPS回線設定
- DOWNボタンを押しながら
電源を入れる → 10PPS回線設定

モジュラー口



電話機

AC100Vへ

本機は電話回線のモジュラー口と電話機の間に取り付けてください。

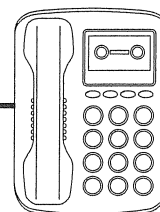
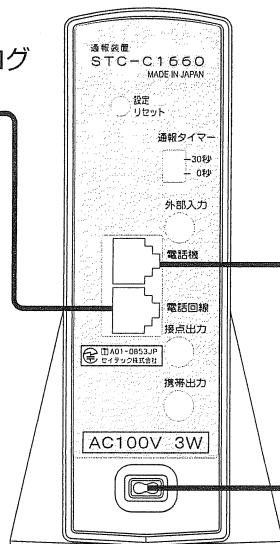
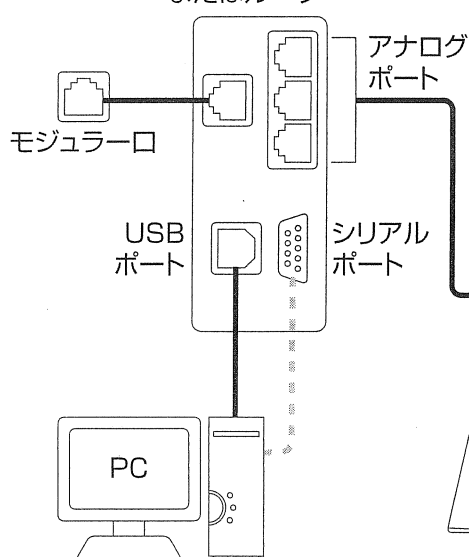
電話機の接続は必須ではありません。

※ホームテレホン・ビジネスホン等交換装置の出力側では使用できません。

交換装置の入力側でお使いください。

ISDN回線 をご利用の場合

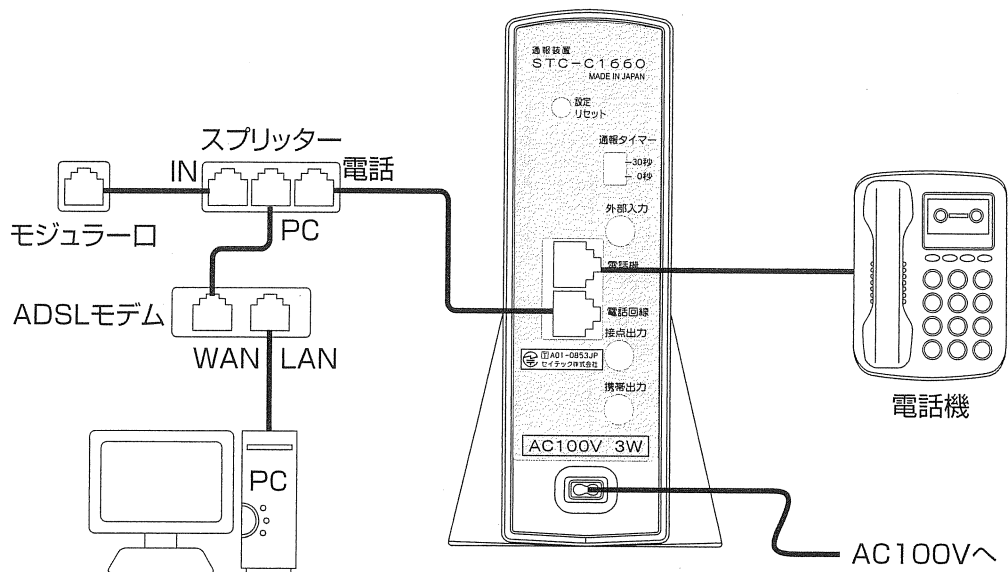
ターミナルアダプタ
またはルーター



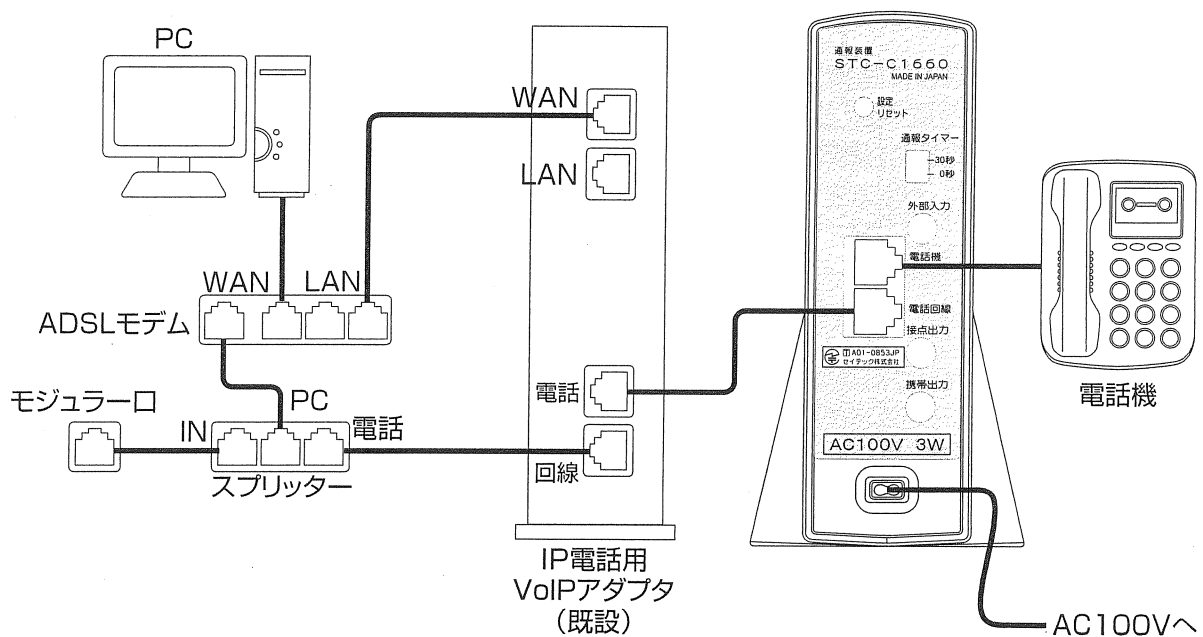
電話機

AC100Vへ

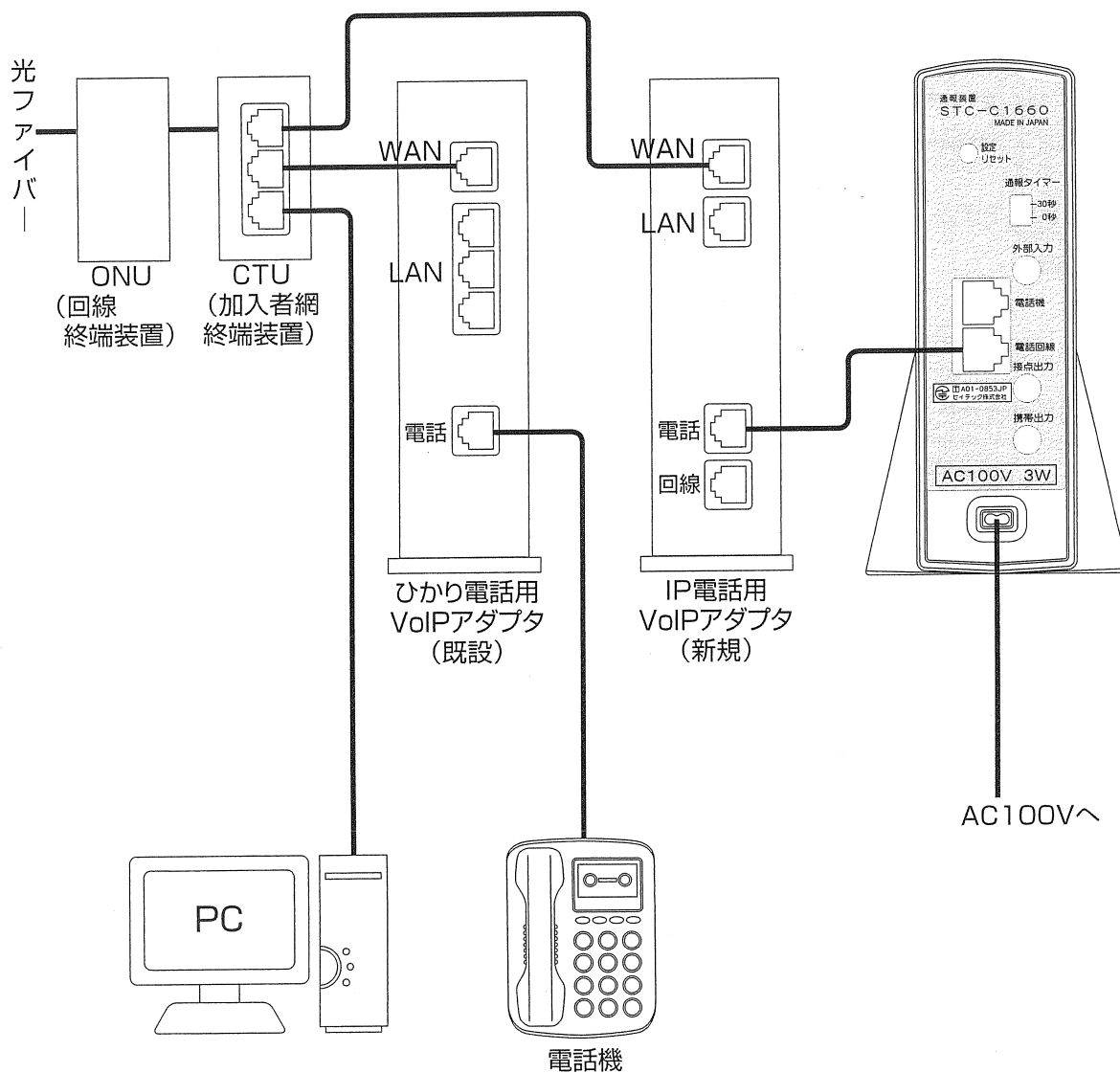
ADSL回線 をご利用の場合



IP電話 をご利用の場合



ひかり電話 をご利用の場合



※ひかり電話用端子に直接接続しても動作しません。

※IP電話用VoIPアダプタは東/西日本電信電話㈱の製品が使用できます。

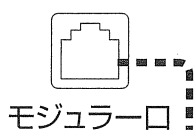
※ひかり電話とは別に契約プロバイダへのIP電話サービス申し込みが必要です。

※VoIPアダプタはアダプタモードで使います。初回設定時にはPCとVoIPアダプタをLANケーブルで直結します。詳細な設定方法はIP電話用VoIPアダプタ取扱説明書をご覧ください。

また、050電話番号等の設定入力方法については各プロバイダHPをご覧ください。

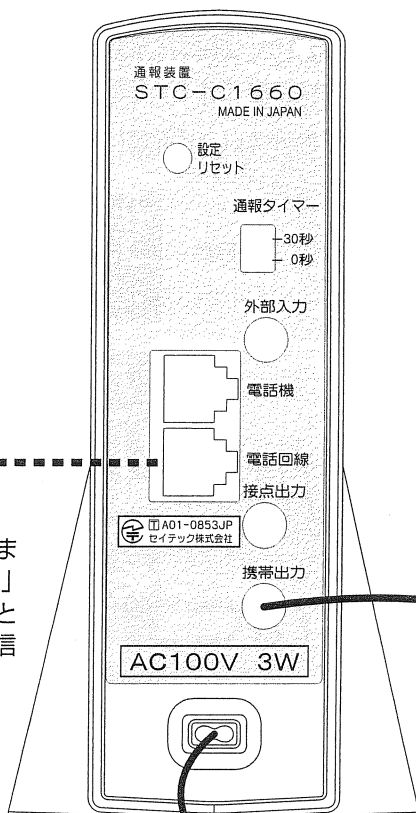
携帯電話

をご利用の場合

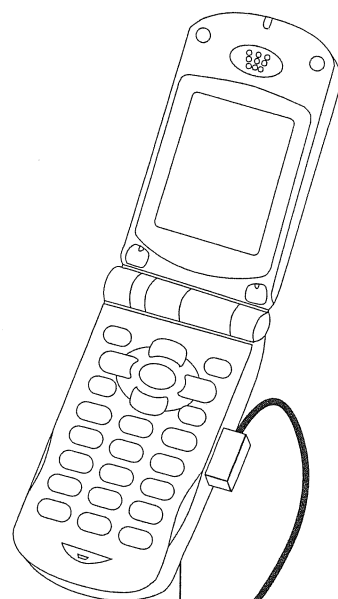


接続不要です。

(接続されていてもかまいませんが、「9924」をメモリーに登録すると一般電話回線へは発信しません。)



AC100V



※自動発信機能(イヤホンスイッチ発信)の無い携帯電話は使用できません。

※電話機側の設定は携帯電話機取扱説明書をご覧ください。

※携帯電話が圏外になっていると発信できません。

携帯電話接続ケーブル(オプション)
〈STB1660E〉

※携帯電話に接続して発信する場合は、別売の携帯電話接続ケーブルが必要です。



↓
本体背面
携帯電話出力端子へ

↓
携帯電話機
平型ジャックへ

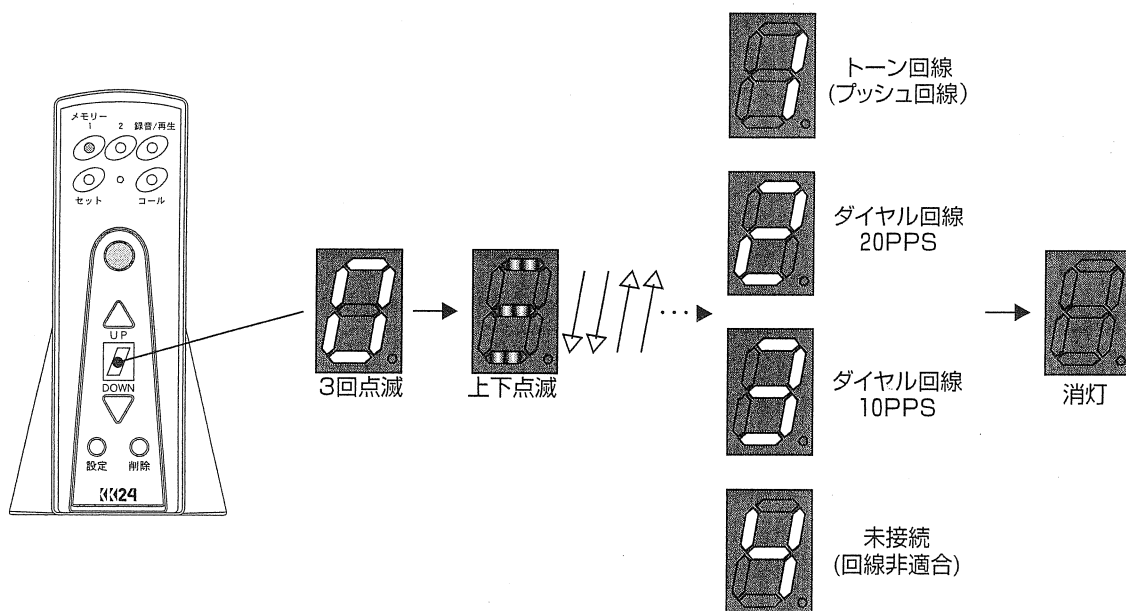
4. 本体通報装置の動作確認

電話回線設定の確認

- 電源プラグをコンセントに差し込むと、番号表示ランプに「0」が3回点滅した後、中央の横棒が上下を数回繰り返して表示します。

この時に電話回線を確認し回線設定を行って回線別の数字を表示し、消灯します。《トーン回線…1、ダイヤル回線…2または3、接続無し…4》

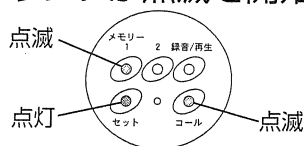
※電話回線を接続しているにもかかわらず「4」が表示される場合は、電話回線を認識できていないか、本機が使用できない回線に接続されています。



通報動作の確認

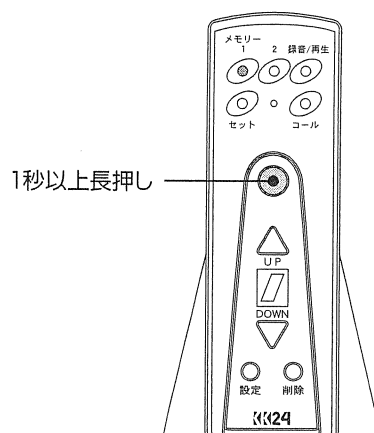
- セット／リセットボタンを1秒以上長押しします。[強制通報機能]

セットランプが点灯し、登録されたメモリーランプとコールランプが点滅を開始します。



接続された電話回線（または接続された携帯電話）から登録された通報先に通報を行います。

※実際に通報しますので事前に通報先の下承を得ておいてください。

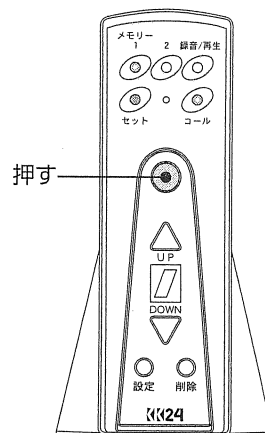
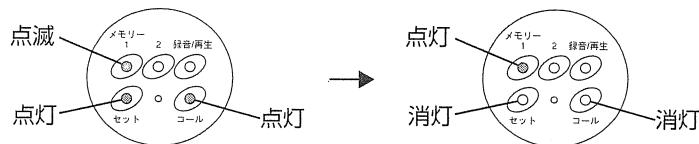


通報動作の停止

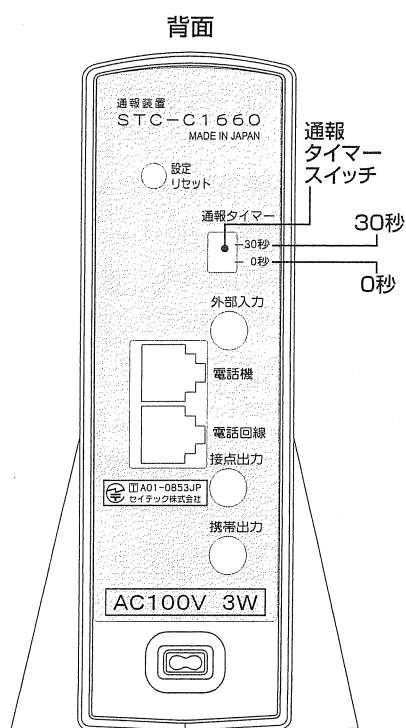
- 通報動作を終了したい場合、または途中で中止したい場合は、セット/リセットボタンを押してください。

コールランプが点灯に変わります。

さらにもう1回押すとメモリーランプが点灯し、それ以外は消灯します。



通報タイマーについて



少しでも早く 通報したい場合

「0秒」に設置すると、本体に異常の信号が届くと即時に通報を行います。しかし、本体を解除する時に人体感知センサーが反応すると誤通報されてしまいます。

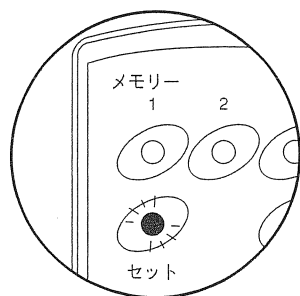
帰宅時の誤通報 を避けたい場合

「30秒」に設定すると、本体に異常の信号が届いてから30秒後に通報を行います。その間に解除を行えば誤通報されません。しかし、実際に侵入があった場合でも通報が30秒遅れます。

5. 「通報待機」の開始と解除

自動通報を
作動させる

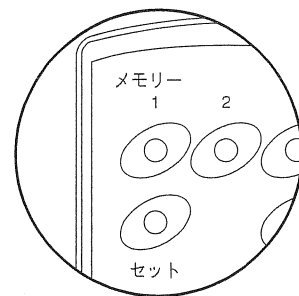
セット/リセット
スイッチを押して
セット状態にする



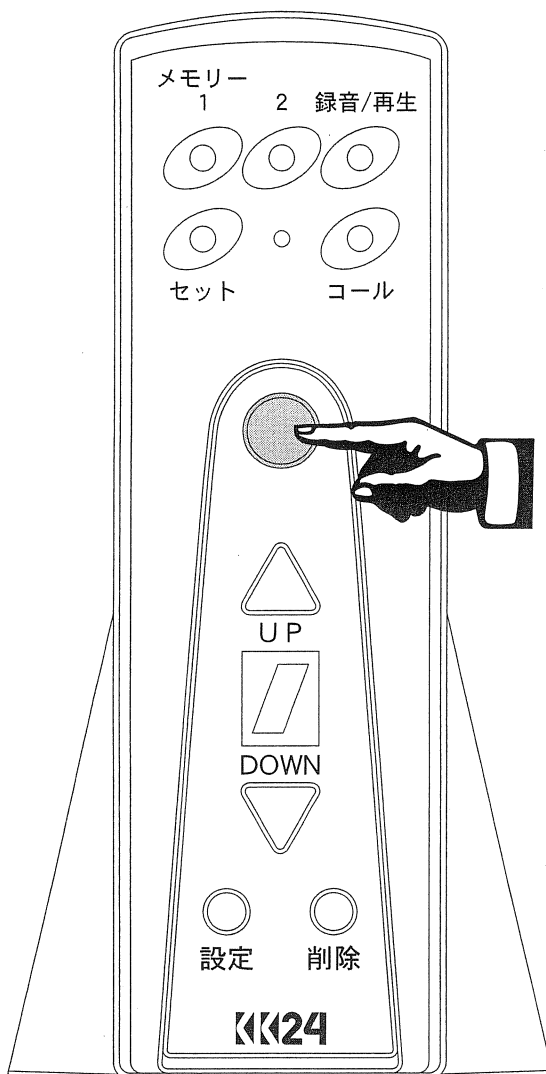
ブザー音とともにセットランプが点滅します。2分後に「点滅→点灯」に変わり、通報待機状態となりますので、その間に外出してください。

自動通報を
解除する

セット/リセット
スイッチを押して
off状態にする



セットランプが消え、通報待機状態解除となります。

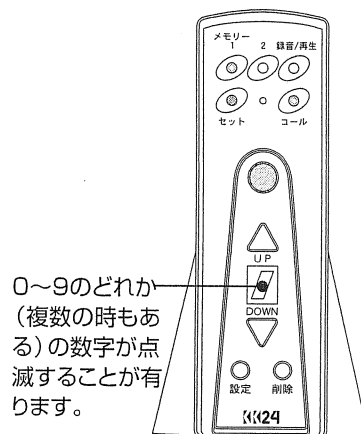


○必ず事前にセンサ類を動作させ、通報動作が行われることを確認した上でご使用ください。

待機中の数字表示

- 通報待機状態の時に番号表示ランプに数字が点滅する場合があります。
その場合、下記のような原因が考えられます。

- ①点滅している番号で登録された送信ユニットの電源が切れている。
 - ②点滅している番号で登録された送信ユニットとの間で何らかの通信障害が起きている。
- ※信号を吸収するような電気製品が付近に差し込まれたか、信号を妨害するノイズを発する電気製品が動作している。



しばらく待って点滅が消えないようであれば、該当の送信ユニットを確認してください。人感センサ等で送信ユニットが正常に動作している場合は通信障害の可能性が高いです。

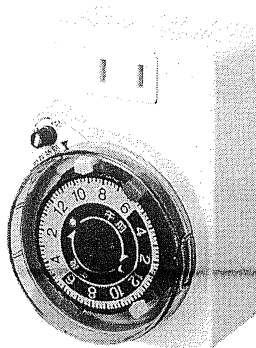
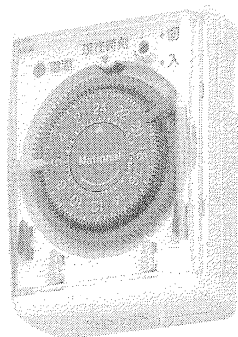
※24時間タイマー(別売)と併用で使用される場合は、セットランプが点灯状態でタイマーが切られるようにしてください。

セットランプ消灯状態でタイマーが「入」になっても通報待機状態には入りません。

※24時間タイマー(別売)は本体通報装置に使用してください。

送信ユニットと組み合わせると誤通報の可能性があります。

※マグネットセンサ等の外部入力による検知は停電時も動作しますのでタイマー停止時間でも通報してしまいます。必ず通報装置の待機状態を解除するようにしてください。



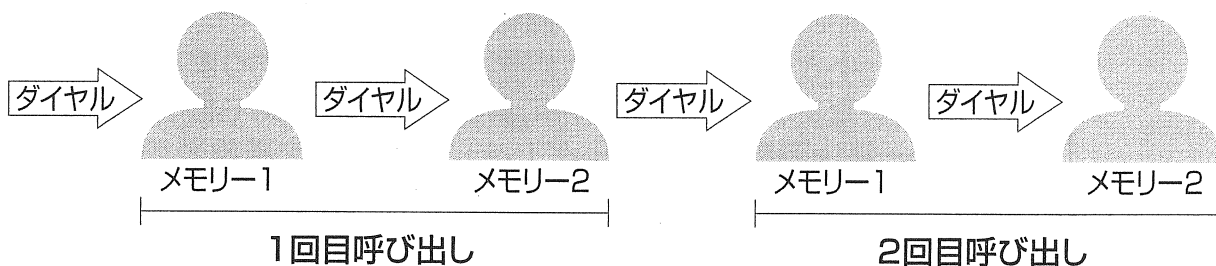
通報動作の流れ

異常を検知した信号が入力されると、
次の手順で登録された電話番号に
緊急通報します。

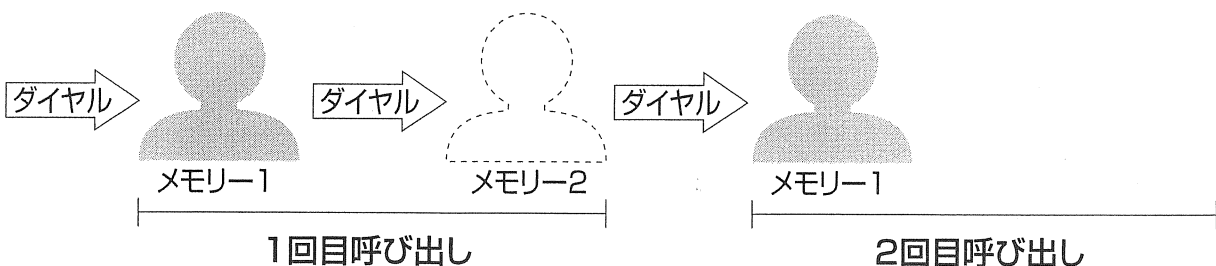


◎緊急24の[リレーション・コール機能] ……ダイヤル先が電話に

例1: 誰も電話に出ない場合



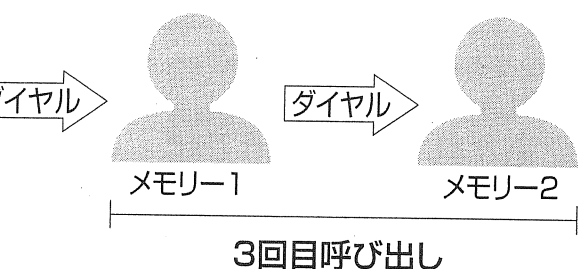
例2: メモリー2だけ電話にでた場合



- メモリーに登録された電話番号、次いでメモリー2に登録された電話番号に緊急通報します。
- メモリー1に登録の無い場合はメモリー2のみにダイヤルします。
- ダイヤル中はダイヤル先のメモリ番号が点滅します。
- ダイヤル先が8回コールしても出ない場合は、下記に示すリレーション動作を行います。
- 登録電話番号先が全て出るまでリレーション動作を行います。
- 3回のリレーションが終了すると通報セット状態に戻ります。
- ダイヤル先が電話に出ると登録されている音声が入力されると5回繰り返し再生されます。(再生ランプ点灯)
- 再生中はダイヤル先のメモリー番号が点滅します。
- 録音メッセージを流した後、通話状態が続いていれば、本体通報装置のマイクから拾った音を最大で2分間そのまま回線に流します。

■携帯電話を利用して発信した場合は、次のような通報となります。発信後、通報先が受話状態になったことを確認し、録音音声を5回再生し停止します。
※留守番電話サービスや伝言メモが応答しても再生します。

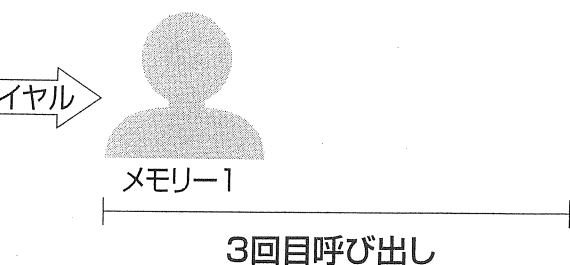
出ない、又は話し中の場合に、出ないダイヤル先を順に3回までダイヤルしなおす機能です。



信号待

- リレーション完了後にはコールランプが点灯状態となります。(通報履歴)

- 通報でダイヤル先が電話に出た場合は、ダイヤル先のメモリーランプが点滅状態となります。(通知履歴)

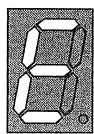


信号待

- メモリーランプ点滅は次の信号入力があるまで保持されます。

エラーメッセージについて

- 本体通報装置の操作上で番号表示ランプに表示されるエラーメッセージを解説します。

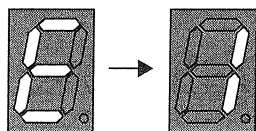


エラーE

送信ユニットの登録で、一定の時間内に信号を受信できませんでした。



P.23 ③の手順で10秒以内に送信ユニットを動作させてください。

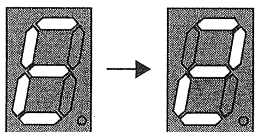


エラーE1

通報先電話番号登録を行わずに通報待機状態にしようとしています。



P.19 通報先電話番号の設定を行った上で、通報待機状態にしてください。



エラーE2

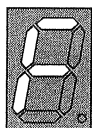
電話回線が抜かれた状態で通報待機状態にしようとしています。



P.25 電話回線の接続を正しくを行った上で、通報待機状態にしてください。

回線自動設定で回線が認識されず「4」表示で起動した場合に、この表示が出ます。

但し、電話番号に「9924」が登録されている場合はエラーになりません。



エラーF

送信ユニットの登録件数が10件に達しています。



P.24 使用されていない送信ユニット登録を削除してください。

Q&A

ホームテレホンを使用していますが接続できますか？

子機側では使用できません。親機（交換装置）の回線入力側でご使用ください。
また、電話機アダプタが接続されていれば使用できる場合もあります。

通報先1人目が受けた後どうなりますか？

メモリー2まで登録している時は、2人目も通報します。

停電の時はどうなりますか？

送信ユニットからの信号では動作しません。外部入力は検知し通報します。
登録内容は保持され、電源復帰時には停電前の状態になります。

通報する相手が話中の場合どうなりますか？

通話終了後通報します。（リダイヤルは3回）

通報先の電話がFAXに切り替わった場合にどうなりますか？

受話状態と認識して通報動作に入り、FAX側がエラー処理で回線を切断した時に
通報動作を停止します。その後のリダイヤルは行われません。

通報先の電話が転送電話の場合はどうなりますか？

転送電話に着信し転送動作を始めた段階で受話状態と認識し通報動作に入ります。
転送先が受話していなくてもリダイヤルは行われません。

通報先の携帯電話の電池切れやエリア外等の場合はどうなりますか？

電話会社がメッセージを流す段階で受話状態と認識し通報動作に入ります。
その後のリダイヤルは行われません。

セット解除を忘れて通報動作に入ってしまった。中止できますか？

セット/リセットボタンで停止しますが、既に録音/再生ランプが点灯している場合は
通報先が受話していますので、間違いであったことを連絡してください。
また、録音メッセージが止まった後はマイクに向かって話しかければ先方に聞こえます。
（先方の音声は通報装置からは聞こえません）

通報動作で録音メッセージが流れる時に本体から音が聞こえますか？

通報動作中はスピーカーからの音は停止されています。

Q&A つづき

送信ユニットとの通信確認が通報動作させずにできませんか？

削除スイッチを押しながら設定スイッチを押すと通信確認状態になります。
その状態で人感センサ等で送信ユニットを反応させ通信が正常に行われると登録された番号が番号表示ランプに表示されます。(P.24 ⑦)
この方法は送信ユニットが通報装置の近くに無いと一人で行うのは困難ですが、送信ユニットの検知ランプを見て判断することも可能です。
送信ユニットは本体からの応答をもって送信を停止しますので、応答が無ければ最大で7回検知ランプが点滅します。→通信不成功の可能性が有ります。
検知ランプの点滅がそれより少なければ本体から応答が有ったと判断できます。
いずれにしても最終的には通報動作まで含めたテストを行ってください。

通報先に手間を取らせずに通報確認したいのですが？

一度は正式に通報テストを行っていただくことを推奨しますが、通報先設定をお手持ちの携帯電話にしておくとその場で着信が確認できます。

修理に出す前にお確かめください。

トラブル	原因	こうしましょう
電話回線を接続しても設定が「4」になってしまう。	回線が正しくない。	アナログ回線に接続してください。
	配線が正しくない。	モジュージャックを正しい位置にカチッと差し込んでください。
	ひかり電話に接続している。	別途VoIPアダプタが必要です。
発信したけれど通報しない。	間違った電話番号を登録している。	正しい番号を登録してください。
通報はするが無音で切れてしまう。	録音されていない。	録音してください。(P.17)
動作しません。	電源が入っていない。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
送信ユニットと通信できない。	サージ対策付のテーブルタップを使用している。	テーブルタップを外して接続してください。